

牛久：学校周辺に見る自然

第28号 牛久第二小学校

2019年2月22日発行

＜ 冬の校庭で、生き物たちの冬ごしのくふうを観察しよう ②ロゼット ＞



1月23日、牛久二小4年生との校庭の生き物観察。今回は、地べたに葉を広げたロゼットを紹介しましょう。タンポポはずっと葉を広げたままですが、冬だけべたっと葉を広げ、春になると茎が高く伸びて花や葉を付ける雑草も多く見られます。その形をバラの花にたとえて、「ロゼット」とよんでいます。こうすると、何かいいことがあるのでしょうか？

冬でも花が咲くセイヨウタンポポ。いつも葉を広げている。



ノゲシ（左）とオニノゲシ（右）。オニノゲシの方がトゲトゲしていて、こわそう？

春に黄色い花をつける、ノゲシとオニノゲシのロゼットがありました。名前の通り、“鬼ノゲシ”の方が痛そうですね。どちらもタンポポと同じキク科の仲間ですが、春になると茎を高く伸ばします。



ハルジオン（左）とオオアレチノギク（右）。どちらもキク科。オオアレチノギクは、みんなの身長より高くなります。

こちらもキク科の仲間、おなじみのハルジオンと、オオアレチノギクです。この姿からはなかなか花の時期のようすは想像できないかもしれませんが、同じ植物を目印をつけるなどして年間通して観察すると、どのように姿を変えていくか、どういう生活をしているか、もちろん名前調べの参考になる特徴も見えてきますよ。オオアレチノギクは、大きいになると高さ2メートルくらいになります。



さて、こちらはオニノゲシに似ていますね？同じキク科の仲間で、初夏に咲くノアザミのロゼットです。どこが違うか？葉の形やトゲ、毛のようすなど、比べてみましょう。それにしても、アザミの花が咲く校庭って、なかなか素敵だと思いませんか？あまり目だたないオオイヌノフグリやホトケノザなどの花も、虫めがねでよ〜く観察してみると、なかなかきれいだしおもしろいですよ。

初夏に花が咲く、ノアザミのロゼット。



こちらは、葉の裏が白いウラジロチチコグサ(キク科)。生きものの名前はその特徴を表しているものが多いですね。春から夏にかけて茎を伸ばし花を咲かせますが、人に踏まれやすいところでは斜めに低く茎を出し、踏まれにくいところでは高く立ち上がって伸びます。タネも小さいですが、ちゃんと綿毛があって、風に乗って飛んでいきます。

葉のうらが白い、ウラジロチチコグサ。



最後に、ヨーロッパ原産でタデ科の、エゾノギシギシ。ギシギシの仲間は大きなロゼットで冬を越し、春から夏にかけて茎を高く伸ばして花や葉をつけます。一見、どれも似たように見えるかもしれませんが、よく見るとロゼットの葉の形も違うし、虫めがねを使って実の形を見ると、種類によって全然違います。ぜひ、実物で観察してみてください。

ヨーロッパ原産で大きなロゼットのエゾノギシギシ。

さて、いろいろなロゼットが観察できましたが、キク科の仲間が二小の校庭では多かったようですね。では、最初の質問にもどって、「このような形で冬を越すと、何かいいことがあるのでしょうか？」

日差しのある日に、ジャージなど多少汚れてもいい服で、芝生の上などにあお向けになってみましょう。すると、日光をいっぱいを受けてとても暖かく感じ、また冷たい風をまともに受けないことに気がつくでしょう。ロゼットの葉をべたっと広げた草も、同じなのではないでしょうか。そして、この中心部には、小さな葉に包まれて小さな芽があります。こうして、大切な芽を冬の寒さや乾燥から守っているのです。また、春になってから発芽する草よりも早く成長できるので、光をめぐる競争でも有利になりますね。このように、自分で移動できない植物も、形と生活との関係をながめてみると、いろいろとおもしろいことが見つかります。まず、目の前の生きものたちをながめることから始めてみませんか？何かおもしろいことを見つけたら、私にも教えて下さいね。

【理科支援員：宮内】